

市立小中学校における より良い教育環境について

令和３年度 提言書

令和４年２月４日

甲賀市小中学校教育のあり方審議会

はじめに

甲賀市小中学校教育のあり方審議会では、刻々と変化する社会情勢の中で、甲賀市の子どもたちにとってより良い教育環境の望ましいあり方について、慎重に審議を重ねてまいりました。

「たくましい心身と郷土への誇りをもち、未来を切り拓く人を育てる」という教育方針のもと、甲賀市の子どもたちにとってより良い教育環境とは何なのかについて、さまざまな立場から意見を出し合い、検討し、提言としてまとめました。

審議会では、市内小中学校の現状と課題や甲賀市幼保・小中学校再編検討協議会から提出された報告書について確認した後、小学校2校の視察を挟んで、計4回の審議会を開催し、協議を行ってまいりました。市内一律の学校再編を行うのではなく、各々の地域の状況を鑑み思いを尊重しながらも、子どもたちの確かな学び、確かな育ちを保障するためには、今の甲賀市の教育環境に何が必要なのかについて検討を行いました。

結果として令和3年度では、より良い教育環境のあり方に関する基本的な考え方を提言し、次年度の具体的な方策の審議へつないでいければと考えております。まずは本提言を踏まえ、甲賀市の将来を見据えた中で、変化する社会情勢に柔軟に対応できる子どもたちを育成するためのより良い教育環境の望ましいあり方について、次年度も引き続き審議を重ねることといたします。

審議経過

<審議会開催>

- 第1回会議（令和3年7月30日（金））

【内容】委員長、副委員長の選任

甲賀市小中学校教育を取り巻く現状と課題について

甲賀市幼保・小中学校再編検討協議会の報告書について

- 第2回会議（令和3年11月2日（火））

【内容】市内小中学校の現状について（意見交換）

- 第3回会議（令和3年12月20日（月））

【内容】意見交換

提言内容について

- 第4回会議（令和4年1月18日（火））

【内容】提言内容について（最終とりまとめ）

- 提言書提出（令和4年2月4日（金））

【令和3年度提言提出】

<視察（学校訪問）>

- 第1回視察（令和3年10月7日（木））

【視察先】多羅尾小学校

小規模校の生活環境状況、学習環境状況、意見交換

- 第2回視察（令和3年10月22日（金））

【視察先】貴生川小学校

大規模校の生活環境状況、学習環境状況、意見交換

提 言

小規模校^{*1}では、教員による個々の子どもの特性や能力に応じた指導、丁寧かつきめ細やかな関わりが可能であり、子ども一人ひとりが活躍できる場面を多く設定することができます。きわめて小規模の学校^{*2}では、個別指導も充実します。

一方で限られた人数の中では人間関係が固定化されたり、集団活動が十分できず、時には成立せず、子どもたちの力だけでは取り組みが難しかったりすることが懸念されます。

きわめて小規模の学校においてはこの状況を改善するために、ICT^{*3}活用や学年の枠を超えた集団学習を進めています。さらに近隣の学校の子どもたちが一堂に会して教科学習や行事を合同で行うなど、多人数での生活や学習の工夫がされています。

子どもたちが集団の中で喜怒哀楽を共有したり、互いに影響や刺激を与え合ったりすることは、学校教育において子どもたちに向上心や協同性を育て、人として成長する上で大切であると考えます。さらにこのことは、多様な次世代を担う子どもたちにとって社会性を育むうえでも大切であります。

このような観点から『より良い教育環境とは、子どもたちが「ともに生き」「ともに学び」「ともに育つ」ことができる環境であり、一定の人数の集団が確保される必要があります。そのために、きわめて小規模の学校が保護者や地域の理解・支援のもと解消されることが望ましい。』ことを提言いたします。

* 1 小中学校の学級数が6～11学級である学校のこと。

* 2 国の定める「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」で複式学級^{*4}の対象となる学校のこと。

* 3 「Information and Communication Technology(情報通信技術)」の略で、様々な形状のコンピュータを活用した情報処理や通信技術の総称。

* 4 二つ以上の異なる学年を一つにして編成した学級のこと。

甲賀市小中学校教育のあり方審議会 委員

No	氏名	区分
1	狩野 秀樹	学識経験者
2	伊藤 孝子	学識経験者
3	中西 三夫	地域団体代表
4	山田 昭	未就学児・小中学校保護者代表
5	池田 静香	未就学児・小中学校保護者代表
6	前川 志津子	教育関係者
7	青木 秀樹	教育関係者
8	八木 正隆	行政機関関係者
9	中野 和彦	教育委員会が適当と認める者

市立小中学校における より良い教育環境について

令和4年度 提言書

令和5年1月23日

甲賀市小中学校教育のあり方審議会

はじめに

甲賀市小中学校教育のあり方審議会では、前年度に「より良い教育環境のあり方」について学校規模の基本的な考え方についての提言をまとめました。今年度は引き続き本市の将来を見据えた中で、変化する社会情勢に柔軟に対応できる子どもたちを育成するためのより具体的な教育環境について、学校の視察等を通して子どもたちの様子や思いにも触れながら、審議を重ねてまいりました。

審議会では、「ともに学び　ともに育ち　ともに生きる」という甲賀市の教育目標の実現のため、教育の内容と方法のあり方をさまざまな視点から審議し、4つのテーマについて提言にまとめました。

甲賀市の未来を担う子どもたちが、時代の変化に柔軟に対応しながらたくましく生きるためには、これまでの議論の経過も十分に踏まえ、この提言内容を基に新しい学校づくりを含めた教育施策に取り組まれることが有効であると考えます。

審議経過

<審議会開催>

- 第5回会議（令和4年4月26日（火））
【内容】令和4年度の審議について
- 第6回会議（令和4年6月7日（火））
【内容】特色を活かした地域学の取り組み、時代に即した学校指導体制のあり方について（審議）、甲賀市の小中連携・一貫教育の取り組みについて
- 第7回会議（令和4年8月9日（火））
【内容】時代に即した学校指導体制、小中一貫教育のあり方について（審議）
- 第8回会議（令和4年9月26日（月））
【内容】教科担任制、ICT教育、小中一貫教育のあり方について（審議）
- 第9回会議（令和4年10月24日（月））
【内容】地域学のあり方について、提言内容について（審議）
- 第10回会議（令和4年11月14日（月））
【内容】提言内容について（最終とりまとめ）
- 提言書提出（令和5年1月23日（月））
【令和4年度提言書提出】

<視察>

- 第3回視察（令和4年5月31日（火））
【視察先】土山小学校
【内 容】地域学の取り組みについて
土山小学校の生活環境、学習環境、意見交換
- 第4回視察（令和4年7月5日（火））
【視察先】宇治黄檗学園
【内 容】小中一貫教育の取り組みについて
宇治黄檗学園の生活環境、学習環境、意見交換

提 言

本審議会は、甲賀市における教育の今後を見据え、必要なことについて4点提言いたします。

1 小学校教科担任制について

子どもたちの生活や学びの環境が多様化する中で、一人ひとりの良さを認めつつ、確かな学力を身に付けるためにより一層多くの教員の関わりが必要です。

複数の教員が各児童に関わることで、個々の学習や生活の様子をより多角的に把握・理解して、指導にあたることができ、児童の学力および学びに向かう意欲の向上も期待できることから、これらの実現のために教員の専門性と多くの教員が各児童に関われる小学校教科担任制が実施されることが望ましいと考えます。

2 時代に即した学校指導体制について

21世紀の社会において、今後ますますICTの活用が推進されていく中で、子どもたちには「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両立させていく方法を取り入れる必要があります。

子どもたちがICTに慣れ親しむために、甲賀市においては「一人一台タブレット」の導入も完了し、すでに活用しています。また、「AIドリル」や「電子黒板」等の導入も進む中、ICT教育のメリットを最大限に生かし、「個別最適な学び」を推進するなど、効果的に活用することが望まれます。

併せて教室の中でみんなが直接顔を合わせて互いに意見を交わすなど、大勢の人間関係の中で学んでいく「協働的な学び」の場を引き続き確保することも必要であると考えます。

3 地域学について

いつの時代においても人を愛し、地域を愛する人材が求められています。甲賀市では、これまで各小中学校において、それぞれの校区ごとの自然、歴史や文化、特色ある地域の産業などを教材化して地域学を教育活動全体を通じて取り組んできました。子どもたちの郷土愛や多様な考え方を養うためには、計画的・継続的な地域学の実践にむけた教育計画が必要です。

今後も、これまで自分が気づかなかった地域の良さや課題について考え合い、その学びを通して、地域の一員であることを自覚させるとともに、将来にわたって地域の伝統や文化を継承していく気持ちを育むことができるよう、地域学をさらに、広く深く充実させることが重要であると考えます。

4 小中一貫教育について

小学校と中学校における9年間の学びで目指す子どもたちの姿を見据え、計画的・継続的な指導を進めることが大切です。

これまで各中学校区を中心に「小中連携教育」に取り組み、学びや学校生活のルール作りはもとより、小中学校教員が授業の交流を行うことにより教科の系統性の確認や、子どもたちが不安なく中学校へ進学するための実践を積み重ねてきました。

今後は、9年間の連続した学びの成果をさらに引き出すために教育課程の編成・実施・評価を一層推進することが求められます。異年齢集団との関わりを通してコミュニケーションや活動などの相互交流の機会が増えることから、児童生徒間で憧れや思いやりの心情が育まれます。また、自尊感情の高まりにより不登校生徒の減少にもつながることが期待できることから、目指す子どもの姿を共有した「小中一貫教育」の導入を望みます。

昨年度の提言を踏まえ、具体的な施策を進めるためにも、子どもたちが互いの良さを知り、刺激し合うことができる人数の中で、以上の4つの視点を柱とした教育活動ができる学校を今後、保護者や地域の理解・支援のもと計画的に整備していくことが求められていると考えます。

甲賀市小中学校教育のあり方審議会 委員

No	氏名	区分
1	狩野 秀樹	学識経験者
2	伊藤 孝子	学識経験者
3	中西 三夫	地域団体代表
4	山田 昭	未就学児・小中学校保護者代表
5	池田 静香	未就学児・小中学校保護者代表
6	前川 志津子	教育関係者
7	青木 秀樹	教育関係者
8	八木 正隆	行政機関関係者
9	中野 和彦	教育委員会が適当と認める者